

「希望・夢」をテーマに―九州連が北九州市で第54回定期大会



九州の県肉連、生衛組合で構成する九州食肉組合連合会(河原光雄会長)は14日、福岡県北九州市のリーガロイヤルホテル小倉で第54回定期大会を開いた。大会には約200人が参加、食中毒に関する衛生講習会に加え「希望や夢」を主題に複数の企画が催され、さらなる業界の発展を誓った。

冒頭、主催者を代表して河原会長(写真)は「業界を取り巻く環境は厳しいが、いま一度、『九州はひとつ』を合言葉にこの場を通じて互いに有益な情報を共有し業界の発展につなげていきたい」とあいさつ。その後、ホスト県を代表して深堀勇・福岡県肉連副会長が「新たな躍進に向け研鑽を重ねていこう」と大会決議文を読み上げ全会一致の拍手でこれを採択した。

定期大会に先立つ勉強会ではメキシコ五輪のマラソン・銀メダリストで地元出身の君原健二氏を講師に「夢の実現のために挑戦」と題する記念講演を開催。同氏は劣等感ばかりだった青春時代、さらには東京オリンピックでの挫折、人生を変えた恩師との出会いなど栄光の影で、もがき続けた自らの体験を基に「小さな目標でも構わない。夢や希望を持ち続けることがいづれ大きな目標達成につながる」と強調、2020年の東京オリンピックで「日本はもっと元気になる」と結んだ。その後、君原氏をコディネーターに同じく地元出身で元プロスポーツ選手の千足美徳(元読売クラブ)、柴原洋(元・福岡ソフトバンクホークス)、竹下佳江(元プロバレー選手)3氏を迎え、パネルディスカッションを実施。交流会で閉会のあいさつを述べた深堀副会長は「決して肉屋は悪い商売じゃない。希望をもって努力すれば必ず夢はかなう。明日からの仕事にぜひ頑張つて欲しい」と参加者を鼓舞し幕を閉じた。

ベトナム向け牛肉と豚肉などの輸出認定処理施設に8施設追加

動物検疫所は12日、ベトナム向けに輸出される牛肉と豚肉などの認定処理施設一覧が更新されたと公表した。「牛肉」日本フードパッカー(株)青森工場(豚も同時に認定)▽和光ミートセンター/株アグリズ・ワン和光ミートセンター牛肉加工室▽東京都立芝浦と場/株イヌイ▽加古川食肉センター/加古川ミートセンター▽鹿児島食肉センター/食肉センター内加工センター。

「豚肉」日本フードパッカー(株)道南工場▽岩見沢市精肉センター/スターゼンミートプロセッサ(株)石狩工場日本フードパッカー(株)青森工場▽三沢市食肉処理センター/スターゼンミートプロセッサ(株)青森工場三沢ポークセンター。

「人事異動」10月1日付―エスフーズ

エスフーズは16日、10月1日付で次の人事異動を発表した。社長直轄部長(丸紅(株)中国総代表補佐) 伊藤武司。